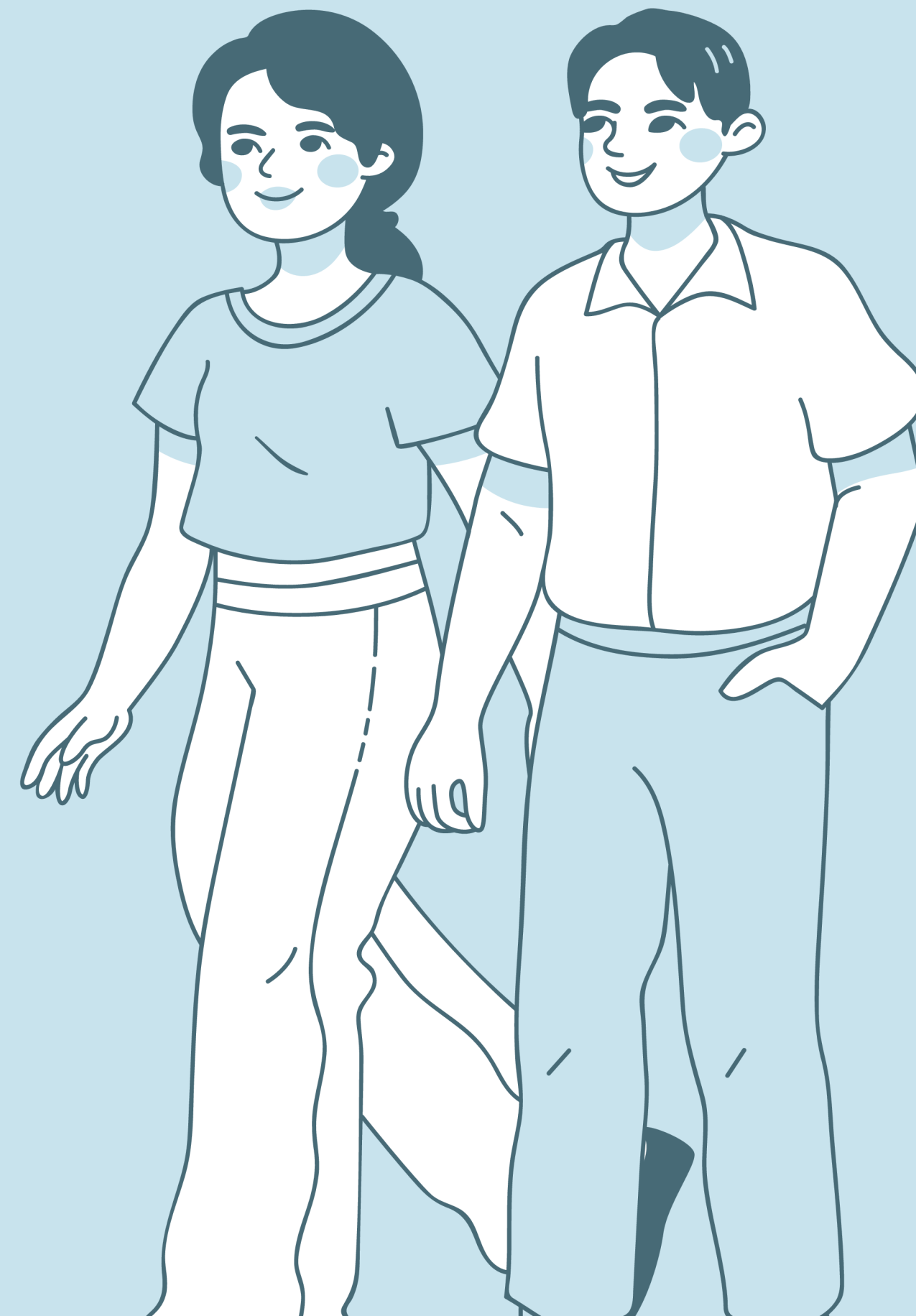



# パフォーマンス課題 を考えよう

教科の学びを表現する課題

# 今日のねらい

パフォーマンス課題の  
イメージを固める




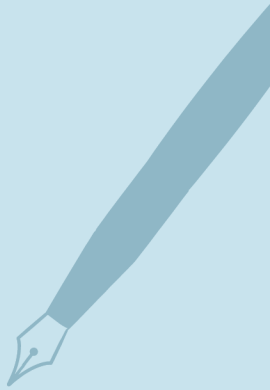




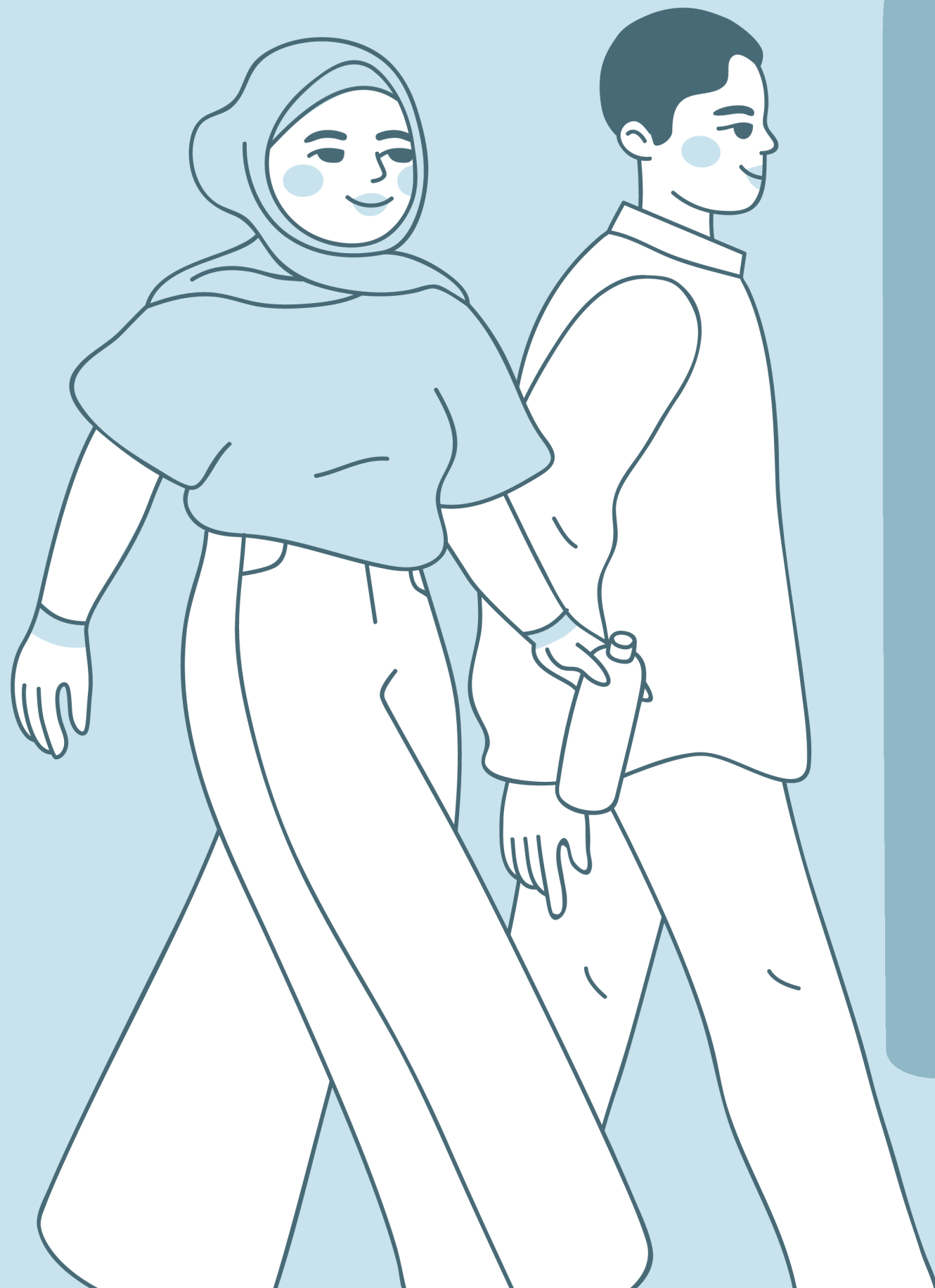
以下について考えよう

---

「“やらされる課題”と  
“やりたくなる課題”の  
違いって何でしょう？」

あなたの答えを共有してください。

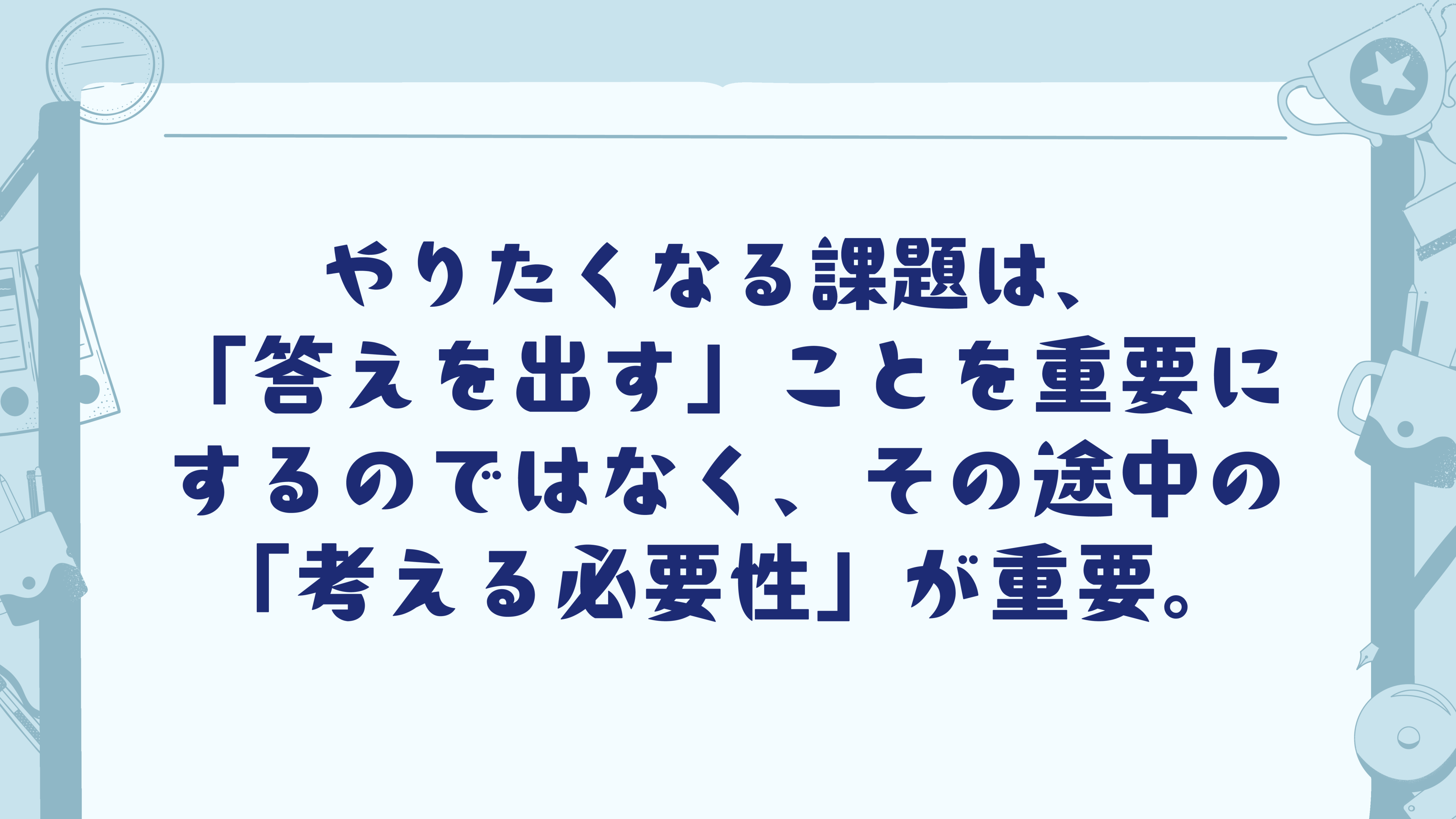




# 違いは？



- 面白そうかどうか。
- 訳に立つかどうか。
- 自分で考えられるかどうか。
- 相手がいるかどうか。
- 現実に繋がるかどうか。
- できそうかどうか。

など



---


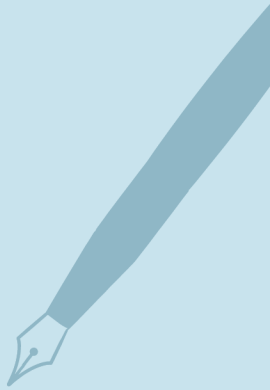
**やりたくなる課題は、  
「答えを出す」ことを重要にするのではなく、その途中の  
「考える必要性」が重要。**



もう一歩深く考えよう



じゃあ、「楽しいだけ」  
の課題と何が違う？



あなたの答えを共有してください。

---

# ポイントは 「学び」

---

学習内容を使えていますか？  
知識は増やせていますか？

# 校長先生のお話

0) 現代社会において子どもたちに必要とされる力とは？

1) パフォーマンス課題（パフォーマンス評価）とは

キーワード

- ・ 本質的な問い （深い学び）
  
- ・ ルーブリック
  
- ・ 永続的な理解
  
- ・ 真正な学び（Authentic な学び）

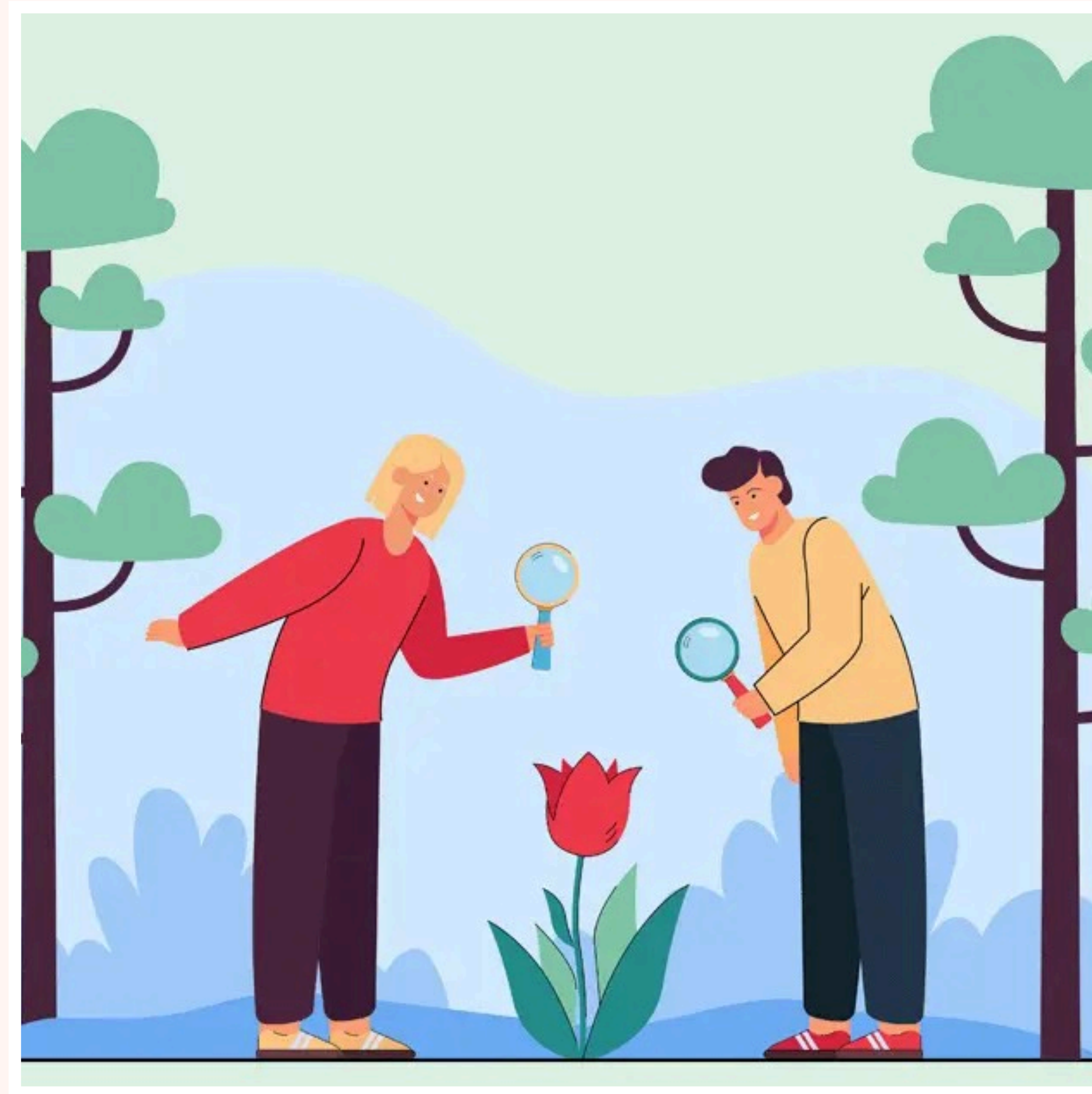
2) 探求的な学びとパフォーマンス課題の関係性

3) 良いパフォーマンス課題とは

---

# 探究的な学びを実現するための パフォーマンス課題

多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものに



---

現代社会において子どもたちに必要とされる力とは？

---

---

# 予測困難な世界



---

# VUCAの時代

- **Volatility** (変動性)
- **Uncertainty** (不確実性)
- **Complexity** (複雑性)
- **Ambiguity** (曖昧性)

---

## つまり

- **変化が速く、予想困難**
  - **正解が一つでない問題が増加**
  - **価値観の多様化**
  - ➡ **固定的な知識・技能だけでは対応できない**
-

---

現代社会において子どもたちに必要とされる力とは？

➤ どのように変化していくかわからない社会の中で、主体的に多様な他者と協働して、問題を解決していける、実践的な力

---

**だから、パフォーマンス課題！**

**(パフォーマンス評価)**

**現代社会において必要とされるのは、  
単なる知識の量ではなくて、「知識を  
どう使うか」という実践的な力。**

---

# 1) 「正解のない問い」に向かう力の育成

あらかじめ用意された正解が通用しない場面が多い。

従来のペーパーテストは「知っているか」を問うものが多いが、パフォーマンス評価は「学んだ知識を組み合わせ、特定の」状況でどう解決するか」を評価する。

アウトプットしていける実践的な力を評価

---

## 2) 非認知能力（ソフトスキル）の向上

AIや自動化が進む中で、人間にしかできない「協調性」「創造性」「粘り強さ」といったソフトスキルの価値が高まっている。

パフォーマンス評価は、最終的な結果だけでなく、そこに至るまでの試行錯誤や、他者との合意形成のプロセスも評価の対象となる。

---

### 3) 自立的な学習者（学びの主体性）への転換

「評価される側」だった子どもを、「自ら学びを調整する側」へと変容させる効果がある。

あらかじめ「何ができれば良いか」を示す評価指標（ルーブリック）を共有することで、子どもは自分の現在地を客観的に把握できるようになる。

「自分はどう取り組んだか」「次はどう改善すべきか」という振り返りを促すことで、生涯にわたって学び続けるために必要な「学び方を学ぶ」力が身につく。

---

# パフォーマンス課題とは？ (パフォーマンス評価)

---

例えるなら

---

---

パフォーマンス評価の究極の目的は、学校での学びと社会での実践をつなげることにある。「学校で学んだことが実社会の役に立つ」という実感を持つことは、子どもたちが自分たちの手で未来を切り拓く力（エージェンシー）を育むことにつながる。

単なる「点数」の序列化ではなく、一人ひとりの良さや得意な表現方法を認め、「多様な正解」を許容する温かい教育環境を構築する上でも、この評価方法は極めて重要な役割を果たす。

---

---

# パフォーマンス評価とは

パフォーマンス評価とは、知識やスキルを使いこなす（活用・応用・総合する）ことを求めるような評価方法（問題や課題）の総称。パフォーマンス評価という考え方は、当初、いわゆる客観テストへの批判を背景として登場した。

客観テストは、幅広い知識の習得状況を短時間で見るのに適している。しかし、リアルな状況で知識やスキルを使いこなす力を見るには限界がある。そこで、実際に知識やスキルを使いこなせるかどうかを見ることを通して学力を評価する考え方として、パフォーマンス評価が登場した。

---

---

# なぜパフォーマンス評価が必要なのか

なぜパフォーマンス評価が必要なのかを理解するには、運転免許を取る場面を思い浮かべてみるといいでしょう。運転免許を取るには、運転に関する幅広い知識が身につけているかどうか客観テストで確認されます。また、教習所のコースを運転することによって、運転に必要な個々のスキルができるようになっていくかが点検されます。これは、実技テストに該当します。ある程度、知識やスキルが身につけてくると、路上教習・路上検定へと進みます。ここでは、身につけた知識やスキルを必要に応じて引き出しつつ、総合して使いこなすことが求められます。路上教習・路上検定に該当するのがパフォーマンス課題です。

---

---

## 文部科学省が求める「資質・能力のバランスの取れた学習評価」との関係

改訂の方針を議論した中央教育審議会の答申では、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である」と述べられている。

---

---

# 「本質的な問い」とは

---

---

# 主体的・対話的で深い学びとの関連

## 「本質的な問い」

各教科における「本質的な問い」に対応させてパフォーマンス課題を用いる。「本質的な問い」とは、教科の中核に位置するような重要な内容を看破することを促すような問いである。「～とは何か？」と深い概念理解を問うたり、「どのように～すればよいのか？」と方法論を問うたりする問いが該当することが多い。

単元で問われるべき「本質的な問い」を明確にし、学習者（児童・生徒・学生）自身がその問いを問わざるをえなくなるようなパフォーマンス課題を設定することは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に効果的。

---



---

# ループリックとは

---

---

# ループリック：段階的な評価基準

パフォーマンス評価を用いると、マルかバツかでは評価できない場合が多くなる。そこで用いられる評価基準表がループリック。ループリックとは、成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を記した記述語から成る評価基準表。

# ループリックの例

## ○ループリック

観 点	和歌に込められた 登場人物の心情を 理解することができる。 (読む能力)
A 3	和歌の解釈として、 作者の、それまでの いきさつを正しく踏 まえた兼家に対する 感情を、和歌に用い られた表現に絡めて 述べることができる。
B 2	和歌の解釈として、 作者の、それまでの いきさつを正しく踏 まえた兼家に対する 感情を述べることが できる。
C 1	和歌の解釈として、 作者の、兼家に対す る感情を述べてはい るが、それまでのい きさつを正しく理解 できない。または、 感情を述べていない。

---

## 文部科学省が求める「資質・能力のバランスの取れた学習評価」との関係

改訂の方針を議論した中央教育審議会の答申では、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、指導と評価の一体化を図る中で、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンス評価などを取り入れ、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である」と述べられている。

---

---

# 「永続的な理解」とは

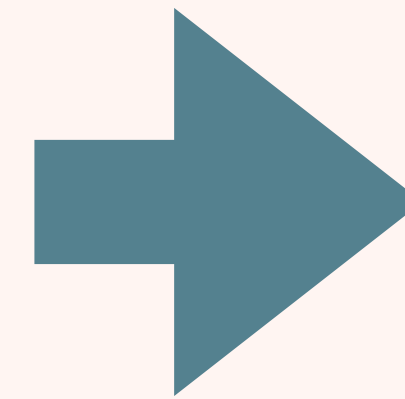
---

---

# 永続的な理解

## 「従来型評価」

- 知識の断片的な再生を測るテスト中心主義
- 学習後すぐに消えてしまう短期的理解
- 「答えが合っているか」のみを問う評価



これからは、

知識・技能・思考を統合し、  
実生活や新しい課題で使える理解  
を評価すべき

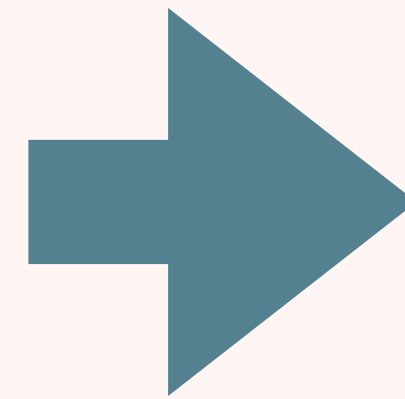
**永続的な理解** = 教科の本質をとらえ、状況が変わっても使える理解

---

---

# 例) 社会科

✗ 「鎌倉幕府は1192年成立」



✓ 「権力の正統性は、制度・武力・  
支持の組み合わせで成り立つ」

実社会的な文脈で意味をもって働く理解

真正の学び (Authentic Assessment)

京都大学  
石井 英真

---

# 真正の学び (AUTHENTIC ASSESSMENT)

学校の中だけで通用する知識の獲得ではなく、  
学習者が意味を理解し、現実世界や新しい状況で自ら使い続けられるようになる学び。

これは永続的な理解が形成される学びのプロセスそのものを指す。

---

# 探究的な学びとパフォーマンス課題の関係性

---

---

# 探究的な学びとは

学習者自身が問いを立て、調べ、考え、試し、振り返るという一連のプロセスを通して、深く理解し、新たな価値や考えを生み出していく学びの在り方です。知識を「教わる」ことが中心の学習から、自ら学びをつくる学習への転換を重視します。

---

# 探究的な学びの基本的な考え方

## 従来の学習

正解があらかじめ決まっている

教員が説明し、児童生徒は理解・記憶する

## 探究的な学習

正解が一つとは限らない

児童生徒が主体となり、思考・判断・表現する

---

# 探究のプロセス

## 課題（問い）の設定

興味・関心や社会とのつながりから「なぜ？」 「どうして？」を見いだす

## 情報の収集

文献、調査、実験、インタビューなど多様な方法で調べる

## 整理・分析

集めた情報を比較・分類・関連付けして考える

## まとめ・表現

考えや結論をレポート、発表、作品などで表す

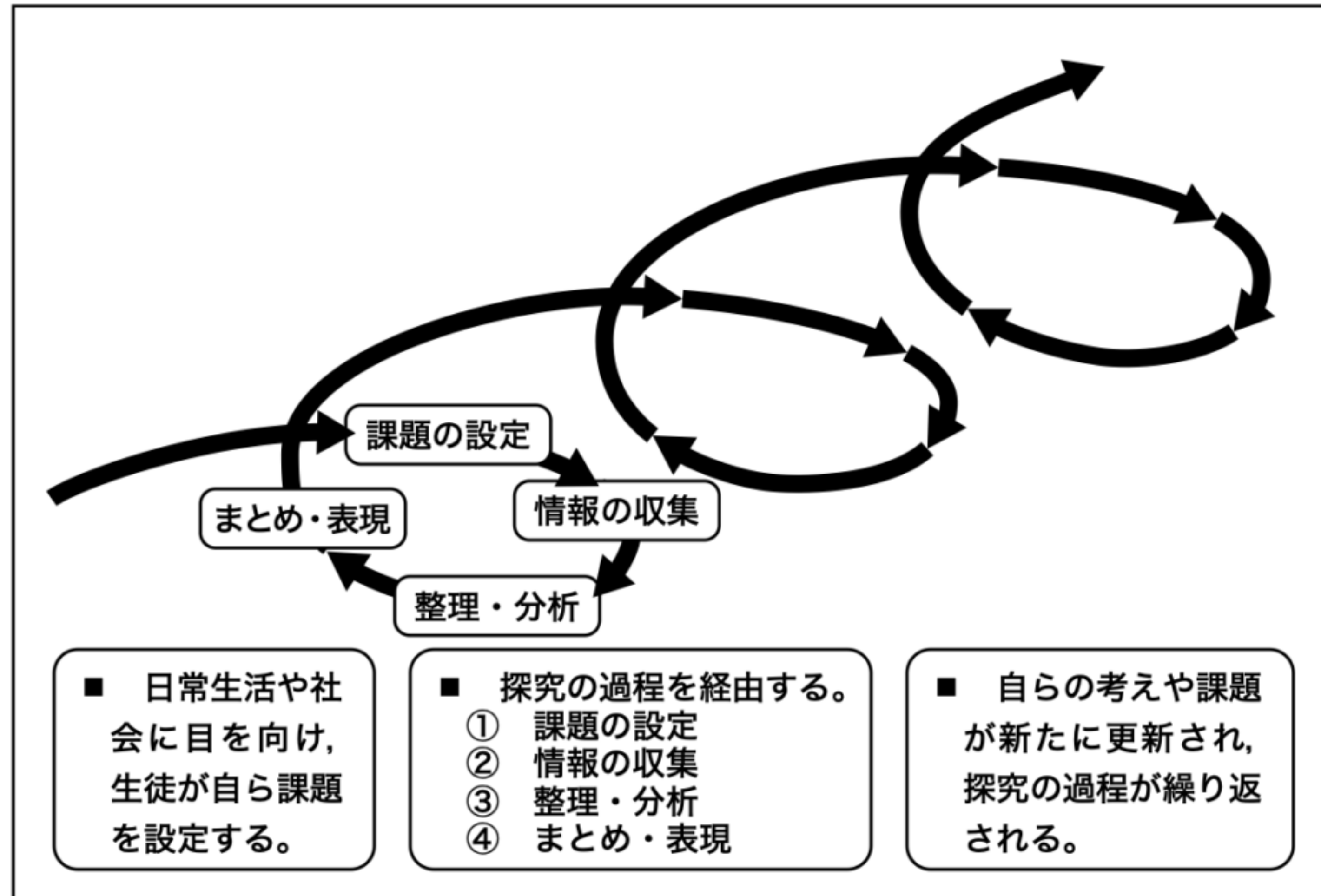
## 振り返り・改善

学びの過程や成果を振り返り、次の問いにつなげる

※一方向ではなく、行き来しながら深まるのが特徴です。

---

# 探求的な学習における生徒の学習の姿



---

# 探求的な学びとパフォーマンス課題の関係

探求的な学びが「問いを通して学びを深める過程」であるのに対し、パフォーマンス課題は、その過程で培われた資質・能力を実際に発揮させ、評価するための課題である。

## まとめ（超要約）

中教審の論点整理において、探求的な学びは「資質・能力を育てる学びの過程」、パフォーマンス課題は「その成果を発揮・評価させる具体的な装置」であり、両者は不可分の関係にある。

---

---

「良いパフォーマンス課題」とは

---

---

# 良いパフォーマンス課題とは

## 良いパフォーマンス課題

- 課題の性質 : 考え・判断が必要
- 知識の扱い : 必要な知識を選び、組み合わせて使う
- 正解 : 正解が一つではない
- 文脈 : 現実・実生活と結びついている
- 問いとの関係 : 本質的な問いに答える課題

## 弱いパフォーマンス課題

- 課題の性質 : 手順どおりにやれば終わる
  - 知識の扱い : 習ったことをそのまま使う
  - 正解 : ほぼ一つに決まる
  - 文脈 : 学校の中だけ
  - 問いとの関係 : 本質的な問いとの結びつきが弱い
-

---

# 良いパフォーマンス課題とは（例）社会科

## 良いパフォーマンス課題

地元のコンビニが売上で困っています。

学習した「情報の活用」の考え方を使って、

①何のために ②どのような情報を ③どのように 活用すれば良いかを提案してください。

## 弱いパフォーマンス課題

コンビニが情報を活用している例を、

教科書や資料集から3つ調べてノートにまとめなさい。

パフォーマンス課題を考えよう

① 単元情報

教科( ) 学年( ) 単元名( )

② この単元で一番学んでほしいことは?

③ この単元の最後のどんな生徒の姿があればいい?(ここがパフォーマンス課題の肝!)

④ パフォーマンス課題の枠を考えてみよう

・誰に伝える?(先生以外)

・どんな場面で?

・何を使って?

どんな形で?

パフォーマンス課題の完成版

⑤ この課題に繋がる授業は?

この課題をするために必要な力

- ・
- ・
- ・
- ・

⑥ どんな活動を積み上げる？

時	どんな学び？

※すべての枠は使わなくて構いません。逆向き設計で考えるので時間をさかのぼった書き方をしてください。

パフォーマンス課題を考えよう

① 単元情報

教科( 国語 ) 学年( 3年 ) 単元名( 俳句の世界 )

② この単元で一番学んでほしいことは?

俳句の言葉から五感情報を読み取る。

③ この単元の最後のどんな生徒の姿があればいい?(ここがパフォーマンス課題の肝!)

俳句は、説明をしなくても情景や感情を伝えられる。

俳句を作る際に、季語の効果を考えて選ぶ。

「説明する」ではなく「想像させる」表現ができる。

④ パフォーマンス課題の粋を考えてみよう

・誰に伝える?(先生以外)

修学旅行に行く後輩たちに

一緒に修学旅行に行った仲間に

・どんな場面で?

修学旅行前に「行ってみたい」「楽しそう」と感じてもらうため

修学旅行に共にいった仲間に思いを共有するため

・何を使って?

情景描写・季語・切れ字・余韻

どんな形で?

プチフライヤーとして、俳句と一言コメント付きで紹介する。

パフォーマンス課題の完成版

課題「俳句を使ったプチフライヤーを作ろう」

修学旅行で心が動いた瞬間を、俳句で表現する。

読む人が「その場面を想像できる」ように、言葉を選び、伝え方を工夫する。

⑤ この課題に繋がる授業は？

この課題をするために必要な力

- ・ 情景を捉える力 (A)
- ・ 五感で感じとる力 (B)
- ・ 言葉を選ぶ力 (C)
- ・ 比較する力 (D)
- ・ 相手を意識する力 (E)
- ・ 推敲する力 (F)

⑥ どんな活動を積み上げる？

時	どんな学び？
8	フライヤーの完成・掲示 (E)
7	プチ発表 読み手を意識して交流・改善 (D) (E) (F)
6	俳句作り (C) (F)
2~5	俳句の読み取り (A) (B) (D)
1	俳句の基礎知識・エッセイの読み取り

※すべての枠は使わなくて構いません。逆向き設計で考えるので時間をさかのぼった書き方をしてください。

---

## パフォーマンス課題のポイント

- ① 本質に迫っているか
    - 知識の再現ではなく「意味づけ・判断・活用」
  - ② 現実とつながっているか
    - 誰かに伝える・社会と関係する
  - ③ 問いが開いているか
    - 正解が1つじゃない
-

では、パフォーマンス課題を作ってみましょう！

# アナウンス

**6月11日（木）に  
授業をしてくださる先生方は  
5月末までに指導案をお願いします。  
学習系の学力向上にフォーマットと  
格納フォルダを作ります。**

5月15日（金）TM パフォーマンス  
課題作りの振り返り



お願い

**本日の研修の振り返りを  
フォームズで集めています。  
今後の改善の為に回答をお願い  
します。**

お忙ししい中

ありがとうございます

ございました。

参考文献 西岡加名恵・石井英真（2019）。

『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス課題』。

日本標準